

20101215_JPWikipedia

嶋野栄道老師ご本人様による、ニューヨークタイムズ社への抗議文を掲載させていただきます。

以下の文章は、嶋野栄道ご老師様本人のご意思、ご要望により日本語に翻訳されたニューヨークタイムズ社への抗議文です。

これまでに第三者によりこのノート欄に書き込まれきた内容は、米国内にて掲載されてきた記事等を自動翻訳サービス等を使い和訳されたものであり、信憑性のないものです。

ニューヨークタイムズ

編集担当者御中

貴紙の国内版に私についての記事が掲載されてから早くも三ヶ月が過ぎようとしております。メディアやインターネット等、時代の発達に伴い、このニュースは世界中に流れ、日本語にまでも翻訳されていると聞き、深く心が痛みました。私はこの気持ちを落ち着かせようこの三ヶ月、苦しみながら耐えてきました。今年が私が引退を決意した年でもあり、何の因果関係もない今回の記事が、その記念すべき引退を無意味なものにしてしまうのではという事に対し懸念を抱いています。引退の日が近づく今、特に訂正を強調したい記事の内容ならびに、記者としての不適切な行為について以下の3点を指摘します。

1

今回の記事の内容一切に対して、オッペンハイマー氏による私自身へのインタビュー等の事実は全くありませんでした。また、同氏によるアトキン氏ならびに記事に登場する当該の若い女性に対する接触も全くありませんでした。記事によると同氏による私への電話連絡に対して、私からの返答が一切無かったとあるが、その様な連絡はリビングトンマナーならびにニューヨーク市内の住所のどちらにおいても全くなく、事実ではないこと。

2

記事の内容を読んだ限り、信憑性も根拠もない内容表現から、オッペンハイマー氏の情報源はまた聞き、さらにそのまた聞きによる紆余曲折した経路から入手したものであることは明白であり、また事実、記事に出てくる人物は、一人として例の夕食の席にはいませんでした。したがって 話の内容がか聞こえたということはあり得ないことです。

さらには、私の引退が今回の間違った告発によるものではないということ。一月に執り行われた理事会において、2010年は私の渡米50周年にあたる年であることに因み、大菩薩禅堂の山門建立のための基金活動を最後に、引退する決意をはっきり表明いたしました。50年が潮時だと思ったからです。

この基金募集活動をもって私は渡米50年を迎える住職としての立場から一線を退き、記念すべき最後の年を迎えたいということこそが、私の真の引退の理由であります。しかし、記事は大きな間違いをしています。私の引退が今回の件の結果であると主張しています。

しかし、その上で更に触れておきたいことは、この記事が、掲載された時、私はスイスで接心という坐禅の修行中であり、ニューヨークに戻ってから知人や友人からはじめて知らされました、この記事がもたらした影響は深大であり、多くの人々は傷つき、そして困惑しています。更に、私文書である我々の理事会議事録がハワイまたはオープンハイマー氏の所有下にあるということは、それは不適切な形で入手、または渡されたものであります。最も不思議に思うのは、1964年以来、私とたった2度の接触しかとっていないアトキン氏が、なぜ仏教徒である私について約50年間も追いつけてきたのかということ。兎にも角にも、貴社のジャーナリストである、マーク・オープンハイマー記者が、私の今回の訴えに対してどう対応するのでしょうか。適切なる回答がなされることを求めます。

合掌

大菩薩禅堂

住職嶋野栄道